

「人生最初の1000日」をサポートするエレビット®ブランドファミリー



エレビット® (プレナタルケア)
妊活中、ベストな葉酸濃度を維持するための葉酸800μgや、妊活時から欠かせないビタミンD25μgなど全18種類の栄養をバランスよく配合。(90粒・約30日分)

産後に切り替え

エレビット® 産後ケア
産後や授乳期に必要なカルシウム、鉄、ビタミンDをはじめとした、14種の栄養素をバランスよく配合。(90粒・約30日分)

＋ カップルと一緒に

メネビット®
男性にとっても大切な葉酸や、ビタミン類、亜鉛など、9つの栄養素を配合したマルチビタミンサプリメント。(90粒・約30日分)

＋ 妊娠中に善玉菌&栄養

エレビット® プロバイオティクス
ママと赤ちゃんのために選んだ3種の善玉菌(乳酸菌、ビフィズス菌)を配合。小腸から大腸まで届く、エレビット独自のトライアングル配合。(30粒・約30日分)

＋ 授乳中に善玉菌&栄養

エレビット® 植物性DHA
赤ちゃんの発育に欠かせないDHAを国際基準に準拠した200mg/日配合。手軽に摂取できる、ソフトカプセルタイプのサプリメント。(60粒・約30日分)

製品概要



製品名 エレビット®プロバイオティクス
区分 プロバイオティクス食品(栄養補助食品)
内容量 10.9g(363mg×30カプセル)
摂取方法 栄養補給の食品として、1日1カプセルを目安に水またはお湯とともに召し上がり下さい

成分(1カプセル中：1日分)
 ビフィズス菌 *Bifidobacterium animalis* subsp. *lactis* (BB-12™)：40億CFU
 乳酸菌 *Lactobacillus rhamnosus* GG (LGG®)：15億CFU
 乳酸菌 *Lactobacillus acidophilus* (LA-5™)：5億CFU

製造販売元 [文献請求先及び問い合わせ先]
バイエル薬品株式会社
 大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001
<https://pharma.bayer.jp>
 [コンタクトセンター]
 0120-106-398
 <受付時間> 9:00～17:30(土日祝日・当社休日を除く)



資料記号 **PRO262504**
 2026年6月作成

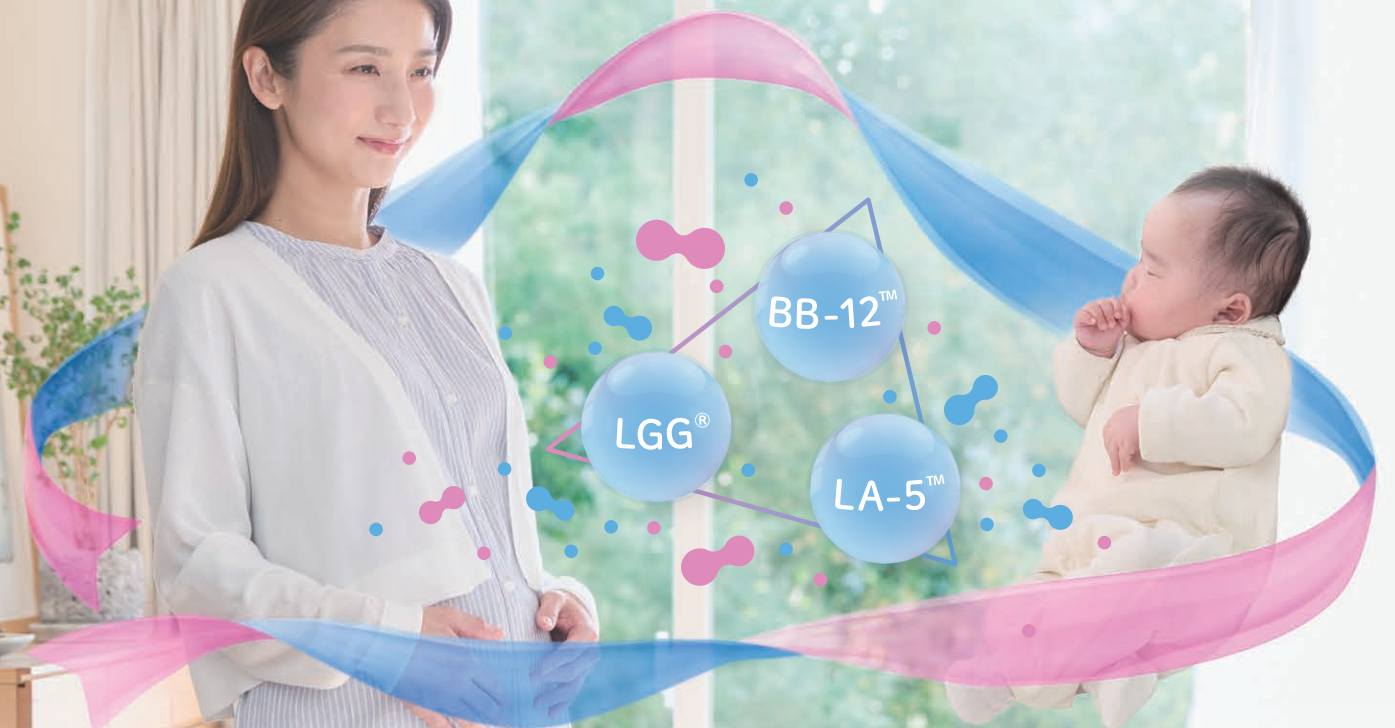
(000000)000-00(00/00)
 CH-20260609-03



妊娠・授乳中の女性へ

本資料は医療機関(医療関係者)向け資料です

妊娠・授乳中のママと赤ちゃんの腸内環境の健康と免疫をサポート



科学的根拠がある、乳酸菌とビフィズス菌の **トライアングル配合**

エレビット®
elevit®
 プロバイオティクス

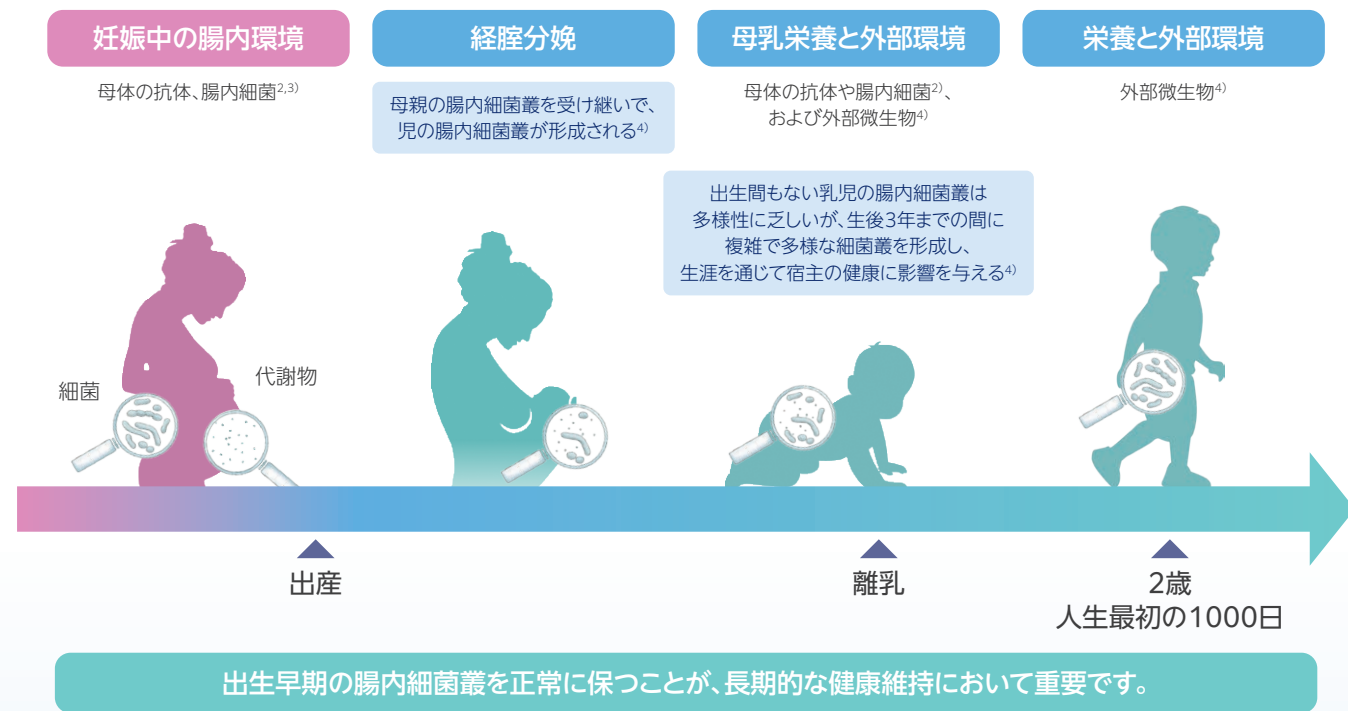


1日1カプセル(目安)

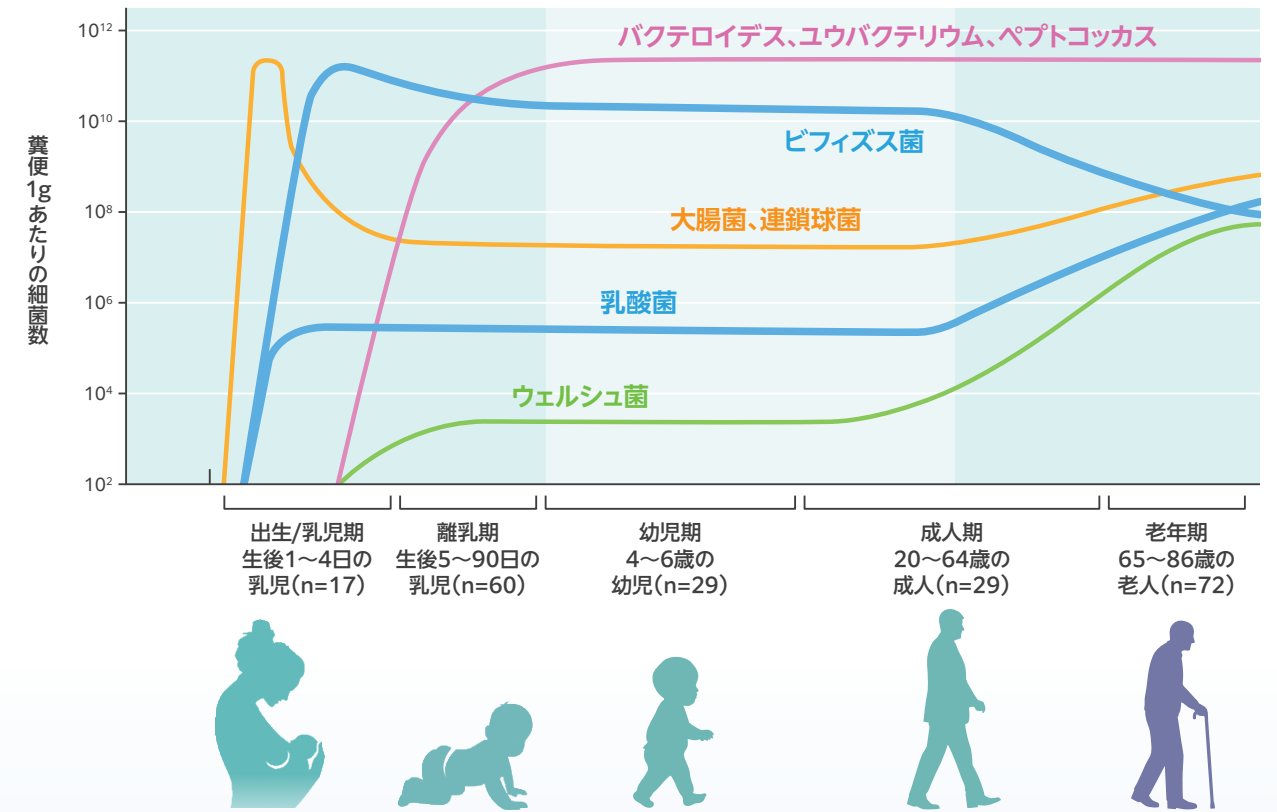
エレビット®プロバイオティクスは、各菌株の臨床試験から得られた知見をもとに設計された独自配合。また妊娠・授乳期における安全性が報告された菌株の組み合わせを採用。母子の健康を想い、腸内環境の健康と免疫をサポートします。

人生最初の1000日：妊婦・授乳婦の腸内環境が児の腸内細菌叢形成に与える影響

- 受胎から生後2歳までの約1000日間は「人生最初の1000日」と呼ばれ、近年、ユニセフやWHOは、この期間における適切な栄養が将来の健康維持に重要であると提唱しています。また、同期間は、腸内細菌叢の形成期でもあり、その状態が生徒にわたる健康に関連することが報告されています¹⁾
- 妊婦・授乳婦の栄養状態や腸内細菌叢の多様性は、児の腸内細菌叢の形成に影響することが知られています。そのため、妊娠中から授乳期は、腸内細菌叢への介入を検討する上で重要な時期と考えられます



- 「人生最初の1000日」に確立された腸内細菌叢は、その後、幼児期から成人期にかけて比較的安定して維持されることが報告されています⁵⁾



Mitsuoka T.: Biosci Microbiota Food Health. 2014; 33(3): 99-116

ヒトの腸内細菌叢（腸内フローラ）について

- 腸内細菌叢とは、ヒトの腸内に棲みついている細菌が、その種類ごとに集団を形成している生態系のことです⁶⁾
- 英語の学術用語として使用されていたGut microfloraの訳語として「腸内フローラ(Flora：花)」とも呼ばれます⁷⁾
- ヒトの腸内細菌叢などの常在菌は、個人ごと・部位ごとに異なり、一人ひとりユニークです⁸⁾
- 腸内細菌は、善玉菌・悪玉菌・日和見菌の3つに大別されます⁹⁾

	善玉菌	悪玉菌	日和見菌
主な細菌の種類	ビフィズス菌、乳酸菌など	ウェルシュ菌、一部のサルモネラ菌、大腸菌(有毒株)、ブドウ球菌など	バクテロイデス、大腸菌(無毒株)、連鎖球菌など
働き	整腸作用や免疫力を高める、腸の蠕動運動を促すなど、ヒトにとって有用な働きをする	有害物質を作り、免疫力を低下させたり、病気や食中毒の原因となる	腸内細菌のバランスにより、善玉・悪玉のうち優勢な方と同様の働きをする

公益財団法人 腸内細菌学会 よくある質問 腸管内にすむ善玉菌、悪玉菌、日和見菌とは何ですか? https://bifidus-fund.jp/FAQ/FAQ_22.shtml (2026年5月閲覧)

出生早期の腸内細菌叢とDysbiosisとは

- 腸内細菌叢の構造や構成、機能に変化や不均衡が生じることをDysbiosisといいます¹⁰⁾
- 出生から2歳ごろまでに生じたDysbiosisは、生涯にわたって様々な疾患と関連します¹⁾

腸内細菌叢が正常

→ 生理機能の発達(代謝、バリア機能、免疫など)

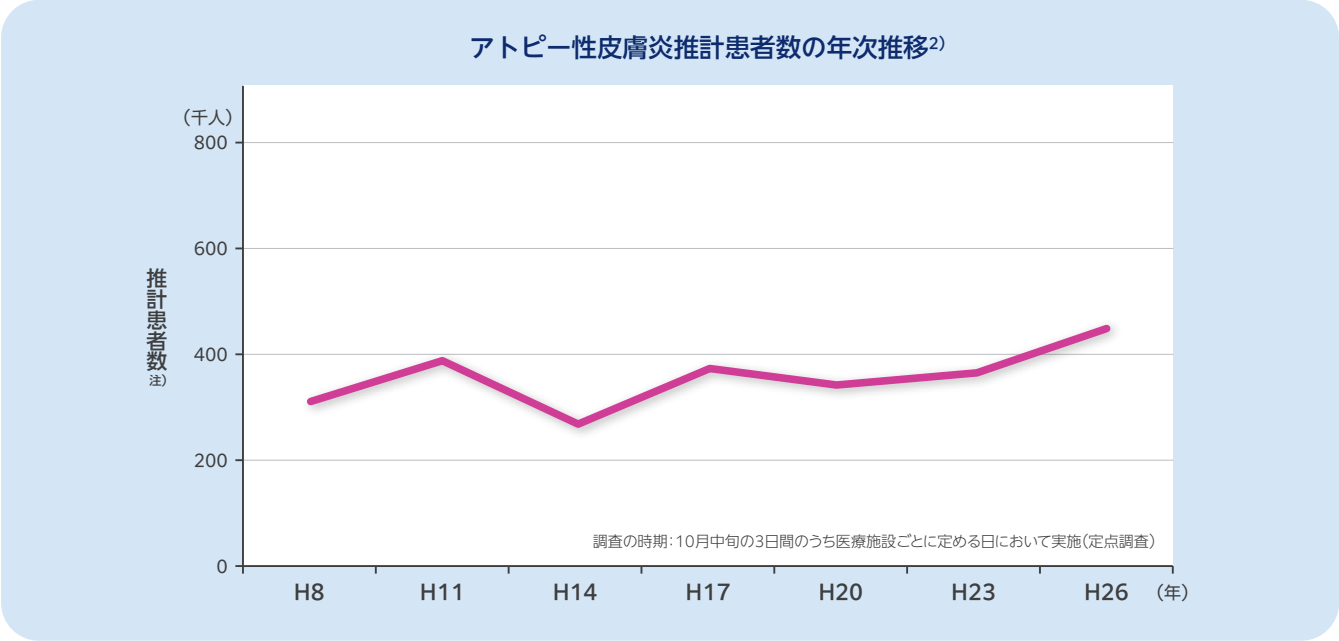
Dysbiosis(ディスバイオーシス：腸内細菌叢の異常)

→ 短期的：妊娠の有害転帰、新生児敗血症など
→ 長期的：アレルギー疾患、炎症性腸疾患、肥満、代謝性疾患、自閉症など

1) 野村英明: 神戸常盤大学紀要. 2016; 9: 1-12
2) Milani C, et al.: Microbiol Mol Biol Rev. 2017; 81(4): e00036-17
3) Tian M, et al.: Gut Microbes. 2023; 15(1): 2206505
4) Lugli GA, et al.: NPJ Biofilms Microbiomes. 2023; 9: 25
5) Mitsuoka T. Biosci Microbiota Food Health. 2014; 33(3): 99-116
6) 公益財団法人 腸内細菌学会 よくある質問 ヒトの腸内にはどのような微生物が棲んでいるのですか? https://bifidus-fund.jp/FAQ/FAQ_02.shtml (2026年5月閲覧)
7) 公益財団法人 腸内細菌学会 よくある質問 腸内細菌叢と腸内フローラ、microbiotaはどう違うのですか? https://bifidus-fund.jp/FAQ/FAQ_28.shtml (2026年5月閲覧)
8) Gilbert J, et al.: Nat Med. 2018; 24(4): 392-400
9) 公益財団法人 腸内細菌学会 よくある質問 腸管内にすむ善玉菌、悪玉菌、日和見菌とは何ですか? https://bifidus-fund.jp/FAQ/FAQ_22.shtml (2026年5月閲覧)
10) Domínguez AMC, et al.: Probiotics Antimicrob Proteins. 2025; 17(1): 440-449

アレルギー疾患は現代病

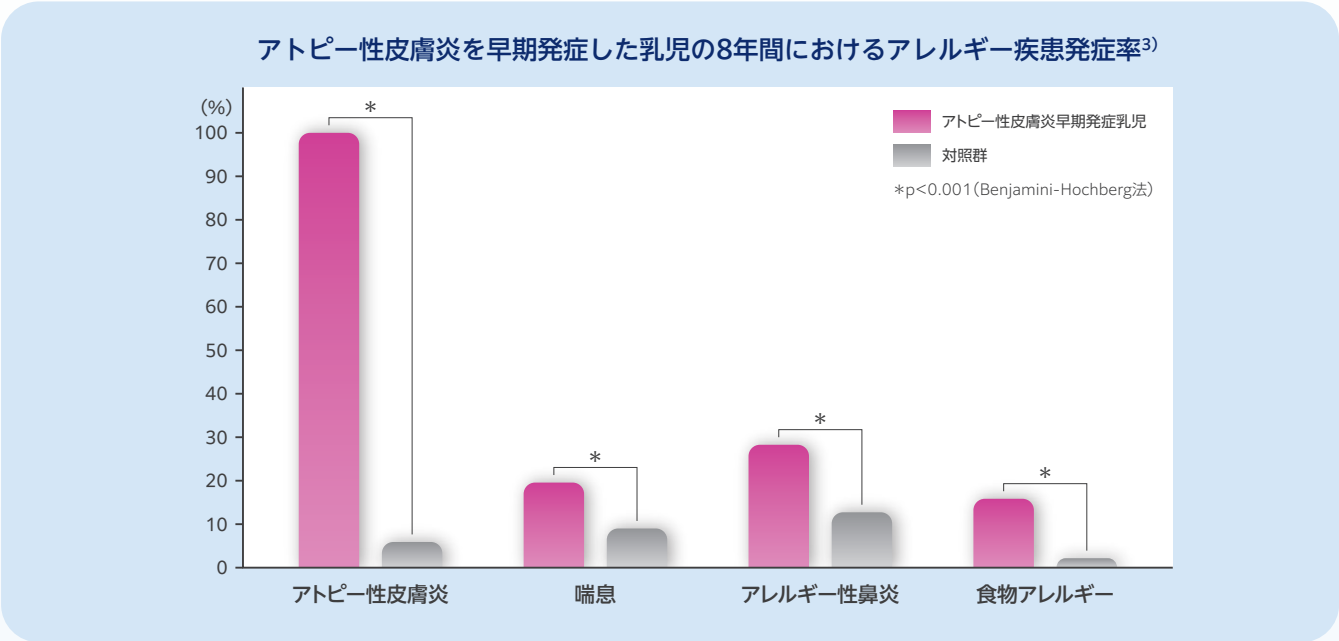
- 世界におけるアレルギー疾患患者数は10億人を超え、2050年には40億人に達すると推計されています¹⁾
- 日本人の約2人に1人はなんらかのアレルギー疾患を抱えています²⁾



注)推計患者数: 患者調査において、調査日現在、継続的に医療を受けている者(調査日には医療施設を受療していない者も含む。)の数を、算式により推計したもの。
患者調査(総患者数、性・年齢階級×傷病小分類別)データを基に集計

早期発症のアトピー性皮膚炎と
その後のアレルギー疾患発症リスクとの関連

- アトピー性皮膚炎を早期発症した乳児は、その後のアレルギー疾患の発症率が高くなります



【目的】早期発症アトピー性皮膚炎乳児におけるアレルギーマーチの危険因子およびアトピー性皮膚炎とアレルギーマーチの関連性を特定する
【対象】2010～2018年に1歳未満でアトピー性皮膚炎と診断された乳児27,228例
【方法】MarketScan Research Databaseを用いて、早期発症アトピー性皮膚炎乳児の喘息、アレルギー性鼻炎、食物アレルギーの発症について対照群と比較した
【リミテーション】保険請求データを用いたレトロスペクティブ研究であるため、追加的な患者情報や治療情報の入手が難しかった。治療データを疾患重症度の代用指標として使用したため、データの正確性に影響を及ぼした可能性がある。2歳未満の乳児におけるアトピー性疾患の早期診断は難しく、データ精度に影響する可能性がある

Choi UE, et al.: J Am Acad Dermatol. 2025; 92(4): 732-740より作図

1) Akdis CA, et al.: Global Atlas of Allergy. EAACI Knowledge Hub. https://hub.eaaci.org/education_books/global-atlas-of-allergy/ (2026年5月閲覧)

2) 厚生労働省. アレルギー疾患の現状等(平成28年2月3日) <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10905100-Kenkoukyoku-Ganshippeitaisakuka/0000111693.pdf> (2026年5月閲覧)

3) Choi UE, et al.: J Am Acad Dermatol. 2025; 92(4): 732-740

プロバイオティクスとは

- プロバイオティクスとは、腸内細菌叢のバランスを改善することによって、宿主の健康によい影響を与えることが期待できる微生物です¹⁾

プロバイオティクスを含む
食品例



【発酵食品】ヨーグルト、納豆、漬物など

- 腸管内でプロバイオティクスは、病原体の排除や免疫調節など様々な作用を発揮します²⁾

- ✓ 上皮のバリア機能の強化
- ✓ 腸粘膜への接着能の向上
- ✓ 病原体の接着阻害
- ✓ 病原体を競合的に排除
- ✓ 抗菌物質の産生
- ✓ 免疫調節作用

エレビット®プロバイオティクス



妊娠・授乳中のママと赤ちゃんのためのトライアングル配合
“科学的根拠”に基づく3種の生きた善玉菌

ママと赤ちゃんのために選んだ、ビフィズス菌「BB-12™」、乳酸菌「LGG®」「LA-5™」を含有。
各菌株における臨床試験の知見を踏まえた独自配合で、妊娠・授乳期の安全性が報告されている菌株の組み合わせを採用。

世界で最も研究報告されている菌株※を配合。3種の善玉菌は、欧州でQPS(安全性適格推定)認定を取得しています。



1) Fuller R.: J Appl Bacteriol. 1989; 66(5): 365-378

2) Bermudez-Brito M, et al.: Ann Nutr Metab. 2012; 61(2): 160-174

3) Dotterud CK, et al.: J Pediatr Gastroenterol Nutr. 2015; 61(2): 200-207

※BB-12は世界で最も研究されているビフィズス菌、LGGは世界で最も論文化されているプロバイオティクス株(Chr. Hansen社調べ 2025年11月時点)

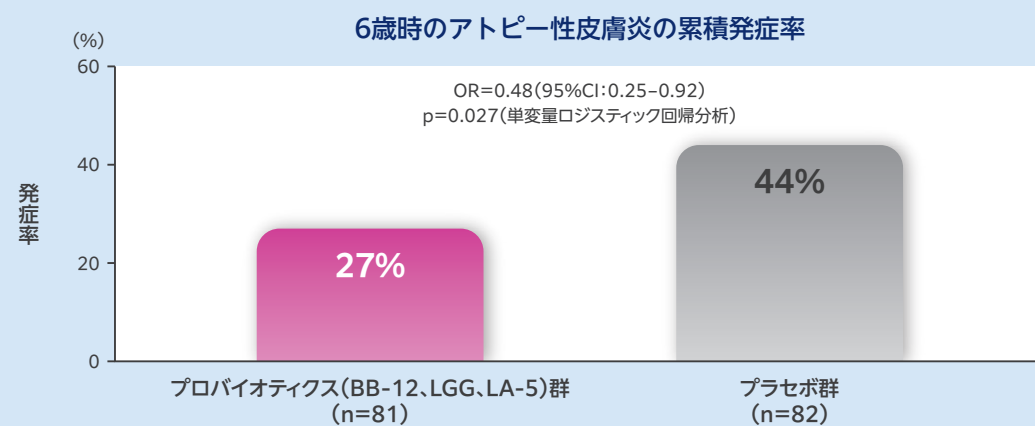
エレビット® プロバイオティクス配合菌株について： これまでに得られた臨床知見

- ① 妊娠中から産後のプロバイオティクス摂取により児のアトピー性皮膚炎の発症率を低下させることが期待できます
- ② 妊娠中から産後のプロバイオティクス摂取により乳児におけるアレルギー感作リスクを減少させることが期待できます
- ③ 赤ちゃんのために：母乳中TGF- β 2濃度レベルに影響し、免疫をサポートすることが期待できます
- ④ 妊婦の腸の機能をサポートすることが期待できます



児のアトピー性皮膚炎発症率への影響

- 妊娠36週から産後3ヵ月まで女性がBB-12™、LGG®、LA-5™を摂取した場合、プラセボと比較して6歳時における児のアトピー性皮膚炎の累積発症率が有意に低下しました



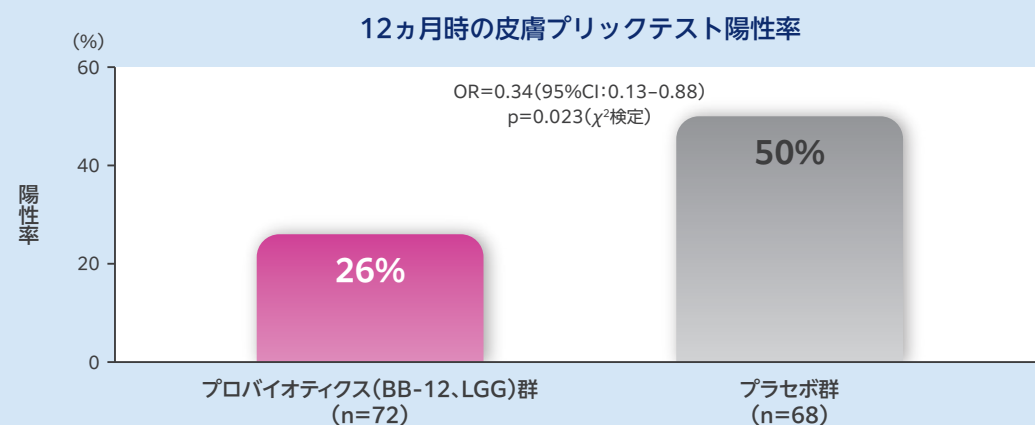
【目的】 周産期におけるプロバイオティクス摂取が児のアレルギー疾患発症に及ぼす影響を評価する
 【対象】 ノルウェーに居住する415名の妊婦とその児100名
 【方法】 415名の妊婦をランダムに割付け、妊娠36週から出産3ヵ月後まで、グループ1はプロバイオティクスを、グループ2はプラセボを毎日摂取した。プロバイオティクス群はBB-12およびLGGを500億CFU、LA-5を50億CFU含む低脂肪発酵乳を摂取した。参加者は妊娠中および産後6週、1・2・6年にアンケート調査に回答し、母体の腸内細菌叢(妊娠36週および産後3ヵ月後)、児のアレルギー疾患の有無(出産10日、3ヵ月、1・2・6年後)、児の腸内細菌叢(出産2・6年後)を評価したランダム化二重盲検試験

Simpson MR, et al.: BMC Dermatol. 2015; 15: 13より作図



乳児のアレルギー感作リスクへの影響

- 妊娠初期から完全母乳育児の終了まで、母親がBB-12™、LGG®を摂取することで、母親にアレルギーがあり、遺伝的にリスクの高い乳児のアレルギー感作を減少させました



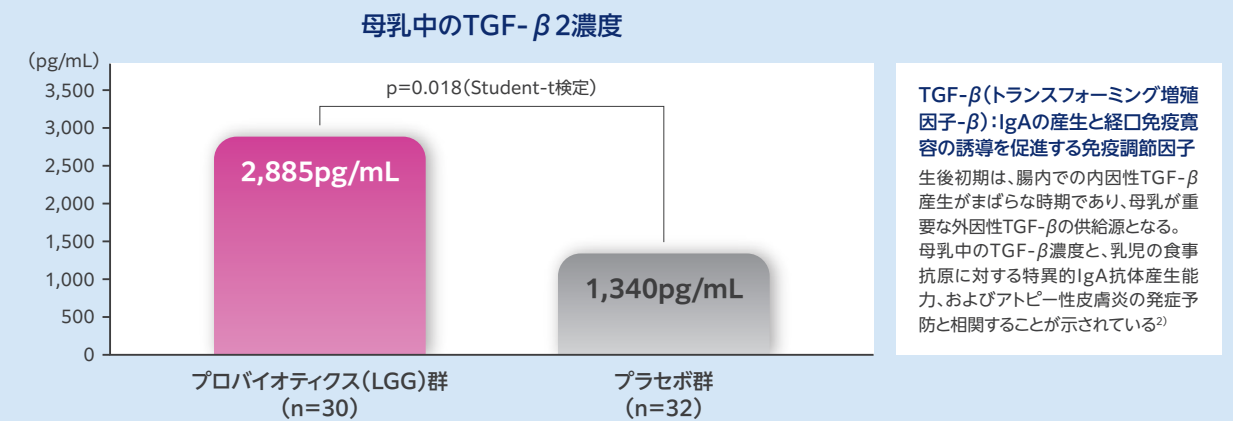
【目的】 乳児におけるアレルギー感作に対してプロバイオティクスが保護効果を発揮する要因を調査する
 【対象】 乳児とその母親171組
 【方法】 プラセボ対照二重盲検試験において、食事指導をプロバイオティクス(BB-12、LGG各100億CFU/日)摂取による栄養調整を行った。乳児は生後6ヵ月および12ヵ月時に、母親は妊娠第3期に皮膚プリックテストを行った。母乳に含まれる成分も測定した

Huurre A, et al.: Clin Exp Allergy. 2008; 38(8): 1342-1348



母乳中のTGF- β 濃度への影響

- 妊娠中から授乳中のLGG®の摂取により、母乳中のTGF- β 2濃度がプラセボ群と比べ上昇することが確認されました¹⁾
- 母乳中のTGF- β 2濃度の上昇は、新生児の免疫調節作用による保護効果をもたらし、アレルギー疾患発症リスクを低減する可能性があります



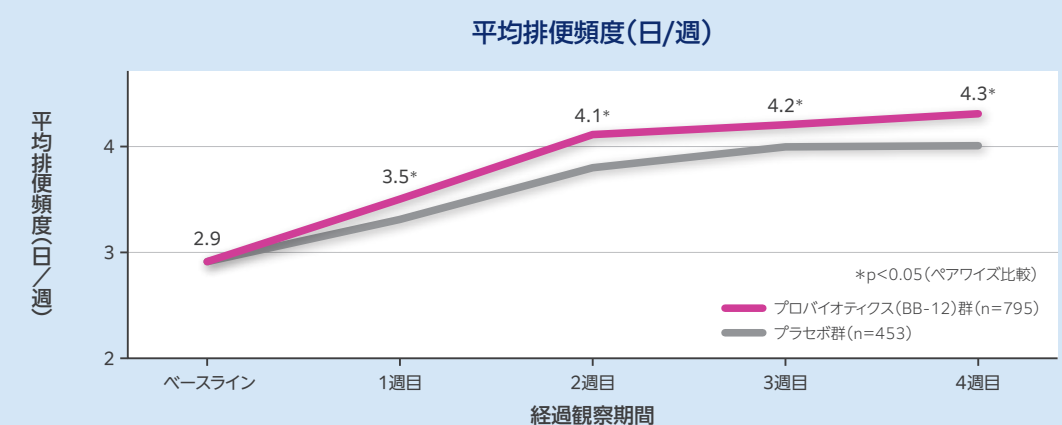
【目的】 アレルギー疾患に対するプロバイオティクスによる予防効果の可能性を評価する
 【対象】 アトピー性皮膚炎の家族歴がある妊婦で、出産後母乳育児を行った女性とその児62組
 【方法】 LGGを200億CFU摂取するプロバイオティクス群またはプラセボを摂取する群にランダムに割付け、出産の4週間前から出産後3ヵ月までの授乳期間中に摂取した。TGF- β は産後3ヵ月時に採取した母乳サンプルから測定した。児の病歴および健康状態は、産後3・6・12・18・24ヵ月の来院時に評価した

1) Rautava S, et al.: J Allergy Clin Immunol. 2002; 109(1): 119-121
 2) Kalliomäki M, et al.: J Allergy Clin Immunol. 1999; 104(6): 1251-1257



腸機能への影響

- BB-12™を摂取することで、排便の頻度が増加しました



【目的】 排便頻度が低く腹部不快感を訴える健康な成人を対象に、BB-12が排便頻度と胃腸の健康状態に及ぼす影響を調査する
 【対象】 18~70歳で、排便頻度が週2~4回であり、腹部不快感を有する男女の健康成人1,248名
 【方法】 2010年9月~2012年12月にフランス、ドイツ、英国の8施設で実施されたランダム化二重盲検プラセボ対照並行群間試験。被験者は1日1回、BB-12を10億CFU摂取する群(n=343)、BB-12を100億CFU摂取する群(n=452)またはプラセボ群(n=453)にランダムに割付けられた。2週間の導入期間後および4週間の介入期間中、被験者はプリストルスケールに記入した

Eskenes D, et al.: Br J Nutr. 2015; 114(10): 1638-1646より作図